

私は、社内に総監技術士がいなかったため、SUKIYAKI 塾のサイトや、市販の参考書等を用いて自己学習で試験に臨みました。ここで、総監部門については、受験申込書における業務経歴（詳細例）の書き方や、口頭試験に関する情報が少なく、大変悩みました。そして結果として、業務経歴の書き方が間違っていたと痛感しており、口頭試験でも非常に厳しい質問・指摘を受けました。結果としては合格していましたが、運が良かったとしか言いようがありません。後続の方々の参考になればと思い、私の体験記を示します。（あくまで、私の解釈であり、間違っている可能性はあります。試験官によっても、認識に違いがあるのかも知れません）

1. 受験部門技術士 総合技術管理部門（建設-鋼構造及びコンクリート）

2. 口頭試験受験日 2024 年 12 月初旬

3. 職業等・地方の中堅コンサルタントで、橋梁の設計や点検に従事（年齢＝50 代前半）・建設部門（一般部門）の合格後、総監部門の勉強を 2 年間実施して受験。結果として 1 回目の総監試験で合格することが出来ました。

4. 前段として、受験申込書における業務経歴（詳細例）について総監では 5 管理に基づいて、詳細例を記載するのが基本となります。受験者の多い「建設コンサルタント業」の例として、参考にして下さい。事業の一連に係わる発注者の立場での回答とは異なってくると思いますので注意して下さい。

1) 5 管理は、実施している業務等における「組織・部署の中での 5 管理」を記載すべき。

①例えば、橋梁設計業務を例に取ります。建設コンサルタントにおける設計業務は、「設計成果に基づいて橋梁が工事され、橋が社会経済活動等に寄与する一連の流れ」の中の「最上流部」に携わっています。そのため、対象となる 5 管理について、「設計業務における組織・部署の 5 管理を対象とするのか（以下、A のパターン）」、「設計業務成果に基づいて橋梁が工事され実際に社会に供用される際の 5 管理を対象とするのか（以下、B のパターン）」のいずれを対象とすべきなのか、非常に悩みました（色々調べても明確に分からなかった）

A：組織・部署（業務）の中での 5 管理の場合

（例）・経済性管理におけるコスト管理＝その設計業務で利益を出すための対策

・安全管理＝その設計業務における現地調査での安全確保策

B：設計成果物（橋梁）に対する 5 管理の場合

（例）・経済性管理におけるコスト管理＝橋梁の工事費やライフサイクルコストが最小化となるよう設計する。

・安全管理＝治水安全性を確保する。安全に工事できる施工計画を立案する。

②私は、5 管理のことがきちんと書かれていれば、この辺りはどちらでも良いのではないかと自己解釈し、結果として B のパターンで記載しました。（詳細例では、特有の現場状況等を踏まえ、5 管理間のトレードオフに着目して記載しました）

③結果として、口頭試験において「ライフサイクルコストの最小化や、治水安全性の確保は設計業務として実施して当たり前であり、総監技術士の 5 管理に該当しない」と、厳しく指摘されました。

2) 業務経歴は、一つの設計業務に固執せず、「組織・部署（業務）の5管理」が関連するプロジェクトや、全体業務で記載した方が良い。

①前述のとおり、詳細例は「組織・部署（業務）の中での5管理」について記載すべきと考えます。

例えば、経済性管理では、プロジェクトを遂行する中であなたが実施した「組織・部署としてのQCDの管理」が審査されているため、それに合致するよう「詳細例」を記載しておいた方が、説明もしやすく、試験官への通りも良いと考えます。

②建設部門（一般部門）の詳細例では、特段の課題等がある1つの設計業務を例に取って記載しているケースが多いと考えます。（この考え方に引きずられがち）ただし、総監部門の場合、1つの設計業務でQCDの課題が生ずるケースは少ないと考えます。（コンサル業は原則として外注NGであり、公共事業で赤字も出にくい。無茶な工期での発注も原則NG）

③そこで、総監技術士の詳細例は、一つの設計業務に固執せず、「複数の点検業務を同時進行する状況下での総合的な管理」や「大規模な台風災害における複数の復旧設計業務の管理」、「橋梁点検に新技術を導入するための社内プロジェクトの統括」等、組織・部署において明確に5管理が発生する事例を、選定すべきと考えます。

④詳細例等は、総監の視点で最重要管理項目やトレードオフ、対策を簡潔に説明できる事例が良いです。（建設部門の時の業務経歴の書き方、選び方に引きずられない方が良い）

5. 実際の口頭試験の総括

1) 質問の要旨

①質問は、業務経歴に記載されている「詳細例」に対するものが9割以上を占めました。

→記載してある内容の確認や、状況に関する補足説明を求められました。

→前述のとおり、私の記載した「詳細例」が、総監が求める5管理と乖離していたことから、非常に厳しい質問・指摘を受け続けました。

→「詳細例」に関する質問・指摘の一部を示します。

- ・工事コスト（トータルコスト）の抑制は、設計としてやって当たり前で、経済性管理では無い

- ・周辺影響（社会環境面での負荷）を最小化するために、桁高の低い橋種を採用したのも、設計として当たり前。

- ・治水対策は、発注者による与条件であり、総監の安全管理としては評価しない

- ・ICTを使う＝情報管理ではない。

- ・地元調整を実施したのは、あなたではなく、発注者→上記のような指摘に対し、その場で上手く回答して挽回できた印象はありません。一応自分の意見を述べましたが、試験官が納得し、NGがOKに変わって質問が終わるのではなく、NGがNGのまま質問が終わっていく感覚でした。

②「詳細例」に関わらない質問は、以下の2点だけでした。

- ・若手の育成について、工夫していることは何か。

- ・FTA（フォールトツリー解析）とは何か。

2) 雰囲気

①試験官は2名（どちらも実務に詳しい印象を受けた）

②A 氏（コンサル？）：全体として、淡々と詰問している感じで、うなずきや同意等が無く、納得しているのかどうか良く分からない雰囲気。

③B 氏（国交省の職員？）：終始、怒っているような言動（圧迫系）。細かい説明等が無い雑な質問が多い。

3) 感想

①口頭試験はどこからボールが飛んでくるか分からないと言われているため、受験動機や今後の抱負、総監的な社内の役割、仮想事例、キーワード等、多くの時間をかけて、色々勉強しましたが、ほとんど質問されませんでした。前述のとおり、私の「詳細例」の記載が不適當・不十分であったため、詳細例にフォーカスを絞って質問された可能性はあります。詳細例が適切であれば、もっと色々な方面からの質問があったのかも知れません。

②建設部門（一般部門）の口頭試験は、比較的和やかな雰囲気で開催され、試験官は私の回答に対して、うなずいたり、同意したりのリアクションがありましたが、今回は非常に厳しい圧迫面接でした。（これまでの実務経験の中で、様々な相手と難しい協議を実施してきましたが、それらを上回るレベルの厳しい面接でした）

③試験終了後はほぼ 100%落ちたと思いました。かなりの時間をかけて面接の準備をしてきたこともあり、「怒られるために新幹線で東京まで来たのか」と、非常にむなしい気分になりました。

6. 後続の方々へ

1) 前述のとおり、詳細例の記載内容には十分注意が必要です。

2) 比較的重要な青本のキーワードについては、択一用のうろ覚えではなく、完全に理解し、さらっと説明できる必要があると考えます。

3) 私の口頭試験状況を踏まえると、何故合格できたのか不思議ですが、圧迫的な質問に対しても、誠実に回答しました。（その場の思い付きでの脚色や誇張はしませんでした）

- ・地元協議を主導したのは誰ですか？→道路管理者である発注者です。ただし協議資料等は当社で作成しました。

- ・河川計画（治水安全性の向上策）を決定したのは誰ですか？→河川管理者です。ただし河川計画の無い普通河川であったことから、素案を当社で作成して提案しました。

4) 圧迫に負けて、発言できなくなったりせず、誠実に回答したことが、最低限評価された可能性はあるかも知れません。試験官は実務に詳しそうであったため、脚色等したらすぐにボロが出た可能性があります。以上です。皆様の参考になれば幸いです。